

再生医療実現拠点ネットワークプログラム
(幹細胞・再生医学イノベーション創出プログラム)
研究開発課題評価(令和5年度実施)
事後評価結果報告書

研究開発課題名	胸腺機能の再構成による多様な反応性を持つヒト T 細胞の再生
代表機関名	京都大学
研究開発代表者名	濱崎 洋子

1. 総合評価

良い

【評価コメント】

iPS 細胞から MHC 拘束性をもつ胸腺上皮細胞を誘導し、これを支持細胞として、ヒト造血幹・前駆細胞から特定のヒト MHC に拘束した T 細胞を誘導する培養系の基盤を確立できた。in vitro の段階では概ね予定通りの成果が得られた。特許出願を 2 件行っており、実用化に向けて高く評価できる。一方、最終目標である機能性まで確認できなかった点については、研究遂行体制として人的要因は充分であったか等の検証が必要である。また、本研究成果を再生医療に応用するに当たり、現状の課題分析および iTEC を用いて誘導する Naïve T 細胞に求められる機能の最終目標を策定する必要がある。今後、in vivo での確認を進め、論文等の成果としてまとめることが望まれる。